



農の未来ネット

NO.39
9月号

特定非営利活動(NPO)法人「農の未来ネット」

理事長：倉本器征(東京農工大学名誉教授)

発行責任者：田沼 繁(NPO法人農の未来ネット事務局：電話&FAX 042-313-3620)

編集長：西村正昭

<http://www.nou-mirai.org/index.html>

インターンシップ 参加報告記

はじめに

前号(38号：8月)でご紹介した武蔵大学インターンシップ生3名(去年は1名)の研修が8月18日(土)から27日(月)の10日間行われ、元気に無事終了しました。受け入れ研修生の実習を担当していただいた埼玉産直センター生産部の内田さん、そして、埼玉産直センター職員の皆さん、農作業実習を受けいれご指導いただいた農家の皆さん、本当のには有難うございました。

ここに、内田さんと研修生の皆さんから感想をいただきましたので、以下に掲載します。内田さんのご指摘のように、もっと、もっと武蔵大学と互いの距離を縮められる濃密な関係を築きたいと思います。

来年も、武蔵大学からのインターンシップ参加希望者が多いことを期待します。

●インターンシップ受け入れ感想●

10日間でおわり。じゃない！ 研修を目指して

埼玉産直センター 内田孟哉さん

「10日間で終わっちゃだめだよ。」研修の受け入れ農家との反省会で一番最初に聞いた言葉でした。単純に「じゃあ、期間を増やすように…」とつい返してしまいそうになりますが、「そうじゃない！」んです。

インターンシップの研修は去年の1人からレベルアップして、3人の研修生を迎えることになり、研修受け入れ農家の数も増やし、10日間の短い期間の中様々な作業を研修することができました。



【写真】

インターンシップ生の面倒みていただいた内田さんです

しかし、短い10日間の研修期間だと、「農業」を知る事が出来る程度で、真に学んでほしいことを伝えられないまま終わってしまいます。せっかく、農業への入り口に立

ったのだから研修で終わりにしてもらいたくありません。もっと興味を持って欲しいですし、研修が終わってからも連絡が取りあえる深い関係になりたいと思います。最終的には研修をきっかけに農家になってくれたらどんなに素晴らしいことでしょう。インターンシップ研修は私達、産直産地としてはそういった深い繋がり作りや、農業後継者獲得の大きなチャンスなのです。チャンスを活かすためにも、来期以降は生産者と研修生が作業だけで関わるのではなく、研修の前後や研修中に交流会を開催してみたり、本人がどのような作物を作りたいか事前に聞き取りその作物を作っている農家へ研修できるようにする等、互いの距離を縮められる濃密な『農業への最初の10日間』にしていければなと思いました。

インターンシップ参加者感想



守屋広輝さん

(武蔵大学社会学部メディア社会学科3年)



埼玉産直センター及び生産者の方々の協力のもと10日間研修させていただきました。農業とは無縁であったので最初にここ



の研修先に決まった時はつらい畑仕事は待って

【写真】 グリーボックス作業中の守屋さん

るのだと思うとあまり乗り気にはなりませんでしたが。それでも今研修が終わって思うことはこの研修先に来て良かったということです。確かに厳しい暑さの中での農作業は大変でした。それでもここで働いている人たちは皆生き生きとして自分の仕事に誇りを持っているように感じました。自分の考えも徐々に変わってきて、ほんの少しではありますが自分が生産から出荷まで携わった野菜を食べてくれる消費者のことを考えるともしっかりとやらなきゃいけないと思うようになりました。普段何気なく食べている野菜が作られる過程に少しでも関わられて良かったです。生産者やセンターの方々の毎日の努力があってこそ私たちは毎日新鮮な野菜を食べることができているということに改めて気付かされました。短い期間でしたが大変お世話になりました。本当にありがとうございました。



山坂浩二さん

(武蔵大学経済学部金融学科3年)



今回の農の未来ネットでの研修で、本当に多くの貴重な体験をすることができました。センターでの作業や各農家での作業は、普段の生活では経験することができないことばかりなので、すごくためになりました。農作業というものを一日やるということは、とても大変なことだと感じました。センターでの作業は農家の方が大切に育てた作物を間違いのないようにしっかりと

管理していて、大切に扱っていたので、農



家とセンターの繋がりの強さを感じ、とても素晴らしいと思いました。今回の10

【写真】集荷作業中の山坂さん

日間の研修は自分の人生でとても貴重な体験となりました。ありがとうございました。



山口禎人さん

(武蔵大学 経済学部 金融学科3年)



私は今回インターンシップとして8/18日～8/27日までの10日間を埼玉産直センター、各農家の方々の農作業を体験させていただきました。農作業の基本である草取りや除



草剤の効果調べるための雑草の調査や私が思っていたよりも科学

【写真】ほ場に散水する山口さん（中央）

的で凄く頭の使う作業でした。埼玉産直センターでは出荷の準備、在庫確認など1つ1つの数が合うまでの確認作業など根気がいる業務だと思いました。今回の職業体験を通して社会人として必要なマナーや働く意味などたくさんを学ぶことができました。埼玉産直センターの皆様、農家の皆様、何も分からない私達をあたたくご指導いただきありがとうございました。

みらい体験農場 収穫だより

昨年の試験的な稲作から、本年は「米作りマイスター」制度を創設し、多くの方にご参加いただき、本格的な米作りを行っています。このことから、機関紙とは別に「農場だより」を発行し、稲作の作業状況をだよりを通じ速報的にお伝えしています。こ



れまでに3号を発行し、会員・支援者の皆さまに提供してきたところです。

【写真】収穫前のコンバインの整備

稲作りは、苗作り、代掻き、田植え、除草作業、水管理、病害中管理、鳥害対策、収穫、収穫後の調整作業と3月から10月まで連続して農作業は続きます。いまは、収穫作業の時期で、10月6日（土）が最後の収穫作業となります。収穫作業への飛び入りも歓迎です。皆さまのご参加をお待ちしています。



【写真】コンバインによる収穫作業

